

進路選択の参考にして

八学大生がオンライン講話

東通在住 田名部高校生に

八戸市の八戸学院大看護学科の学生2人が18日、東通村在住の田名部高校生有志が主催するオンライン講話「ぬぐだまりオンライン」で講師を務め、キャンパスライフや授業などについて同校生徒の質問に答えた。

(千葉真由美)



高校生の質問に答える野口さん(左)と成田さん(八学大提供)



東通村在住の高校生とオンラインで語り合う八学大看護学科の学生(同大提供)

ぬぐだまりオンラインは、田名部高校生約30人が加入する「東通村高校生サロン」が進路選択の幅を広げようとして5月からスタート

ト。同村を拠点に人材育成と地域づくり活動を行う一般社団法人 tsunuguru(つむぐ、小寺将太代表)が支援している。講師は1回目が現役の弘前大生が、6月に実施した2回目は同村出身の看護師が務めた。3回目となる今回は八学大看護学科3年の成田夏音さん(20)と野口優花さん(21)が講師となり、同大の教室からオンライン参加。高校生4人から「1人暮らしで大変なことは」「面白い授業は何か」「八戸の魅力は」といった質問を受け、気さくに対応していた。成田さんは「大学選びや自分

の将来像について高校生たちが熱心に考えている」と、野口さんは「年上の大学生と積極的に話そうという姿勢がすごい」と感想を語った。

同大は新型コロナウイルスの影響でオープンキャンパスを中止したため、松山政義学務部キャリア支援担当部長は「今後も高校や高校生個人の要望に応じて、学生や教員がオンラインで対話したり大学を紹介したりする場を設けたい」と話した。